



@幸せな贈り物

深い泉

主婦のうつ病

もはや、心の風邪ではありません！

パジュ、チョンジュ、ヨンジュ…

パジュ/4月21日夕方、キョンギのパジュの警察の緊急電話に切羽詰った声の電話がかかってきました。「アパート入り口の番号キーを押して玄関に入って、妻（32歳）が首から血を流しながら左手に凶器を持って自分に立ち向かっている」という申告でした。妻は茶の間のベッドに横になって天井をながめながら、左手に上げた凶器を首につけていて、警察は直ちに凶器を奪って、妻を制圧しました。しかし、二人の息子はすでに二人とも首に致命傷を受けて亡くなった後でした。夫がゴミを出して捨てて、店に行ってくる間、しばらく席をはずした時間は、たったの15分であったのに、その短い間にぞっとする事件が発生したのです。妻は長男を妊娠中だった時から性格が急変したということです。病院では「妊婦のうつ病」と言われました。病院の精神病棟で治療を受けている妻は、まだ二人の息子が亡くなった事実も知らずにいます。

チョンジュ/2月21日午前8時、チュンブク、チョンジュ市、フンドクのプンピョンドンのあるアパート。主婦イさん（42歳）は、夫が出勤した後、突然死ななければならないという気がしました。茶の間から台所にきて、流しに置いていた包丁を取り出しました。自殺を決心したイさんは、自分が天国に行けば母親の暖かい世話を受けることのできない娘の姿を思いながら、娘もいっしょに死ぬのがいっそより良いと思いました。結局、イさんは、寝ている娘の首を凶器で一度刺したあと、自分の首を数回刺して自害を試みました。部屋にいた息子（15歳）が妹の悲鳴を聞いて行って見て、この光景を目撃して警察の緊急電話に助けを求めました。

イさんには結婚後2007年からうつ病の症状が訪ねてきていました。結婚前にあった交通事故の後遺症によって、からだの動きが鈍くなって、他の人々より遅れるという絶望感が積み重なってきたことが原因でした。社会生活をしながら、こういう絶望感はイさんをずっと困らせました。結局「私ができることは何もない」という劣等感が一日中続いて、こういう精神的苦痛は不眠症につながりました。2週間、眠れず、食べ物も食べることができませんでした。苦しみから抜け出すために、家で一人で普段は飲めないお酒まで飲んだのですが、何の効果もありませんでした。イさんは、事故当日、解決できる方法は、自ら命を絶つことだけだという考えをするようになって、結局、家族に一生消せない傷を残してしまったのでした。

ヨンジュ/昨年8月24日午後7時、主婦キムさん(42歳)は、4歳と2歳になった息子を連れてキョンサンブクドのヨンジュにある自分の家からテグドンクのシンソドンにあるアパートへ向かいました。アパートに到着したキムさんは、エレベーターに乗って直ちに13階に上がって息子2人を抱いて階段を通過して身投げをしました。

2006年に結婚したキムさんは、安定した職業を持った夫(47歳)と円満な家庭を築いていました。いつも幸せなことだけのようなだったキムさんに、不幸の影が差しはじめたのは、結婚3年後の2009年のことでした。最初の子どもが自閉症、二番目の子どもが発達障害という診断を受けた後、キムさんに怖い病気が訪ねてきました。二人の息子が病気なのは自分の誤りだと自ら叱責しながら、それがうつ病につながりました。夫が妻と二人の息子を治療するために病院に相談をしたその日、キムさんは、二人の息子とともに極端な選択をしたのでした。

専門家たちによれば、女性がうつ病になる確率は10~25%、半分以上が30代半ばから50代後半に現れるということです。特に産前・産後、または閉経期のときのホルモン変化のために発生する主婦うつ病は、適時に治療を受けられなければ、15%ほどが極端な選択をするとも言われています。専門家は「子どもを独立した対象ではなく、所有概念で見て、自分自身と同一視する韓国の母親の特徴が、子どもを道連れにする自殺につながるようにさせる」という分析をしました。

健康保険審査評価院が医療機関で健康保険を請求した件数を土台として、男女性別、年齢別うつ病、そううつ病の統計を作成しているのですが、2007~2012、年病院・医院と療養機関がうつ病、またはそううつ病を診療した件数を調べた結果、2007年には280万469件、2012年には458万6,170件と集計されるなど、年ごとに大きく膨らんでいて、女性の比率が男性より2倍以上多くなっています。また、韓国保健医療研究院が昨年、一般人1,000人と精神科専門医201人を対象に、最近1年間で軽いゆううつ感、または、無気力感を調べた結果、一般人は72.3%、精神科専門医は65.6%がうつ病に苦しめられていると現れました。このようなうつ病は、すでに心の風邪という軽さを越えて、社会的な問題として席を占めています。

世界各国でもうつ病に対する対策に腐心していません。日本政府は、昨年職場定期健康診断項目にうつ病の精神疾患検査を含めるという内容で労働安全衛生法を改正して、来年から施行するという方針を発表しました。自殺、およびうつ病の問題が深刻にな

ったと判断したためです。フランスは、1998年青少年と青年層を対象に国家次元で自殺防止プログラムを制定・宣言した以後、うつ病などを国民健康の優先課題として自殺とうつ病に対処するプログラムを開発してきています。

すべて疲れた人

重荷を負っている人々…最近の時代を示して、多くの人が「うつの時代」だと話します。そして、うつ病は「心の風邪」にすぎないと話します。しかし、うつ病は、すでに私たちのそばに「声なき殺人者」として迫ってきているという事実を否認しません。喜ぶべき人生をゆううつにさせるその何か、聖書では人間自ら解決できない問題があることを分かるので、とても簡単な解答を提示しています。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイ11:28)

聖書で話す福音とは、人間が解決できない問題、そして、人間が受けるすべての問題を解決する解答のことを言います。そして、その解答がキリストであることをあかししています。

キリストは、この地に来られて十字架で死んで復活されることによって、神様を離れたすべての人間が神様に会うことができる道を開いてくださいました。(ヨハネ14:6) イエス・キリストは、十字架で私たちの罪の代わりに死なれることによって、私たちのすべての罪を解決して、のろいと災いから解放してくださいました。(マルコ10:45、ローマ8:2) イエス・キリストは死で復活され、今でも人間を困らせて地獄に引っ張っていくサタン(悪魔)のすべての権威を完全に打ちこわされました。(1ヨハネ3:8) キリストは、運命と宿命がもたらしたすべての不幸とうつ病を解決して、人生の永遠な幸せと喜びを回復してくださいました。

その「キリスト」(Christ)がまさに「イエス」(Jesus)であることを聖書はあかししています。今、キリストであるイエス様を信じて、心に受け入れることによって、永遠な神様の子どもになります。すべての運命の不幸から解放されることができます。福音はあなたの人生を永遠に幸せにする神様の喜びのお知らせ(good news of great joy)です。

あなたが、その主人公です。

イエスを信じなくてもよい理由 信じなければならぬ理由

今でも思い出す医師との対話があります。その方との対話はこのようにはじまりました。心臓手術を控えて1時間程度の検査をしていました。医師は、私が牧師であるということを知っていたので、イエスを信じなさいということばは言わないでくれという表情でした。すこしの時間が流れた後、こういう質問をしてみました。

「先生が、イエスを信じないでもかまわない条件があるのですが、ご存知でしょうか」予想外の話に医師は「いいえ。イエスを信じないでもかまわない条件があるのですか」と言いながら聞きたそうでした。「先生が3つの問題だけ解決できるならば、イエス様を信じないでもかまいません。もしかして、先生は今まで生きてきながら、深い孤独を感じたことはありませんでしたか」今でも孤独に思うことが多いと言いました。「もし永遠に私を愛して祝福される方がともにおられるなら、孤独でしょうか」「孤独ではないでしょうね」「その方がまさに聖書で語っている神様ですが、その方に会う道を知っておられるならば、イエス様を信じなくてもかまいません」

沈黙が流れました。「二つ目は何ですか」沈黙を破って、その医師が尋ねました。「もしかして、先生は罪のために悩んだことはありませんか。自分だけが分かる罪のために、その罪責感と報いのために悩んだことはなかったですか」今でも罪を犯して悩んでいると言いました。「その罪とのろいから解放される道を知っておられるなら、イエス様を信じなくてもかまいません。しかし、ご存知でないならば、イエス様は十字架で死んで復活されることによって、人間を罪と死の原理から解放されたと約束されました」

さらに長い沈黙が流れました。かたい表情で彼は最後の三つ目は何かと尋ねました。「今まで生きてきて、自分と家庭と家系、医師という仕事をしながら、理解できないことだと感じられたことはなかったでしょうか。ことばにできないおかしな苦しみはなかったでしょうか」ところが、思いがけない返事をしました。「悪霊がいるようです」「悪霊がいる、いないの問題ではありません。そこから抜け出す道を知っておられますか。知っておられるなら、イエス様を信じなくてもかまいません」その方の人生の中で、はじめて福音に接した大切な出会いでした。手術1年後、精密検査を受けるためにまた訪ねた病院、まず最初に私を歓迎した医師が、まさにその先生でした。

目に見えないからといって、手に触れないからといって、存在自体がないわけではありません。

重要なことであるほど目に見えなく、触ることができないことが多いのです。神様は人の体の重要なものは、目に見えないようからだの中に入れておられました。精神も、心も、たましいもそうです。そして、神様は信仰によってだけ見える重要な道を開いてくださいました。それが、神様に会う道、すべての罪とのろいと生年月日による運命、宿命から解放される道、サタンと悪霊の権威から解放される道、福音です。そしてその福音の実体がまさしく、イエス・キリストなのです！



神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してください。くださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

ど/れ/だ/け/善/良/な/ら

救われる
のですか？

日常に追いかけられ、真面目に生きていて、ある瞬間、ふとこういう考えが浮かぶことがある。いつまでこのように生きていて、はたして、私はだれなのか。こういう考えは、特別な天才的才能を持った哲学者だけがすることではなく、人間なので当然の質問だ。しかし、簡単な質問ほど、やさしい答えを見つけることは難しい。生活は今日を生きていくことだが、生活以後の生活を救いと言い、今日を生きている私たちに未来は経験したことがないから、救いの意味と価値を見つけることができない。それでも人間は考える存在なので、救いのための価値のために宗教を作って、宗教に帰属する救いの価値に人間らしさを加味した。

人間が人間としてできる最高の価値は愛だ。人はだれでも知恵があって、人間らしさを発見すれば、その事実を愛で表現することを望む。東西古今を通じて、知識人の価値や宗教人の評価は、まさに愛の実践だった。その孤高さの価値を普通の人は善行と見て、自らそれを現わすことを楽しんだ。当然のことだが、実行しにくい行動を喜んで実践するのが自分の未来のための答えだと自分で決定して、その価値を人類の普遍的価値と感じた。

世界史で中世を暗やみの時代と言っている。神様のみことばを捨てて、人間の考えを神とみなすので、その時代は、やみがいっぱいだったためだ。それでも、その当時の人々は信仰の価値を善行に置いて、充実した宗教的生活を送っていた。一般の人は聞き取れないラテン語だけ進行される、一時間を越える礼拝を観覧して、本当にイエスのからだに変わったと信じるひとかけらのパンを得ることを彼らは望んだ。とても善良な礼拝が、彼らには救いだと思なされたためだ。礼拝が終わろうとするとき、司祭が語る「イタ・エストウ・ミサ」(Ita est missa: これから世の中に送られます)ということは、人々がわかるただ一つのラテン語であった。それは、もう家

に帰れという言葉だったためだ。それで中世礼拝を「ミサ」(送られる)と呼んだ。

礼拝に参加する善行が良いことであったし、それは断食、慈善、聖地巡礼、献金、聖水収集、十字軍参加なども同じだった。さらには、最高の善行は、独身と殉教であり、善行の最高域に至った人々が聖者であった。さらには功労と善行は銀行のお金のように借りられることとして見なされた。こういう誤った教えは、人類の歴史で福音の本質が抜けた暗やみの時代に見られることだった。人間の失敗は、完全さを捨てた人間の問題なのに、それは人間自ら解決できないのだ。それゆえ、人間ができる愛や功労や善行では、問題は解決しない。人間の問題は、その問題を基本的知っておられる神様が完璧に準備しておかれた救いを受け入れるところにある。

人間の努力では救われないから、神様はキリストの方法で人間を救うことを望まれる。人間が持っている最高の力はすなわち自分だけだ。その表現が愛という善行だけであるのだが、それは彼自身自らを救うのにも、あまりにも足りない。神様が値なしに贈り物でくださる信仰の方法で人間は救われる。とてもやさしくて簡単なので、信じることができないということは常識だが、救いは常識で受けるのではなく、信仰で受ける。救いは善良なことを努力して苦労しながら受けるのではなく、ただ信じれば救われるのだ。

チョン・ヒョングク(福音コラムニスト)



*相談したい方はこちらまでどうぞ